

平成 29 年度 第 1 回 学校運営協議会 議事録

司会：岩碕 篤全日制教頭

日時：平成 29 年 6 月 8 日（木） 15 時 00 分～16 時 40 分

場所：大会議室

【出席者】

長田 利彦 (元本校校長、東海大学講師)  
近藤 赳夫 (城北自治会長)  
石井 教頭 (小田原市立桜井小学校教頭)  
中島 教頭 (小田原市立城北中学校教頭)  
木村 亘 (小田原市役所市民部地域政策課)  
泉川 佳奈子 (本校 P T A 会長)

[本校職員]

改田 晃 校長  
八田 直昭 副校長  
岩碕 篤 全日制教頭  
荻野 賢 定時制教頭  
蓑島 信成 総括教諭 (全日制) 広報連携グループ  
磯田 裕也 教諭 (全日制) 広報連携グループ

【事前配付資料】

- ① 平成 29 年度学校評価報告書 ( (目標設定) 全日制、定時制)
- ② 平成 29 年度学校教育計画 (全日制、定時制)
- ③ 県立小田原城北工業高校グランドデザイン
- ④ 平成 28 年度学校評価実施報告書 (全日制、定時制)
- ⑤ 平成 29 年度年間行事計画 (全日制、定時制)

【当日配付資料】

- ① 学校概要説明資料
- ② コミュニティ・スクール関係資料
- ③ 学校要覧 (平成 28 年度版)
- ④ 学校案内 (平成 29 年度版)
- ⑤ 進路状況 (平成 29 年 3 月卒業生)
- ⑥ 資格取得状況
- ⑦ 部活動等の成果
- ⑧ 定時制資料

## 【次第】

(1) 学校運営協議会委員委嘱

・委員委嘱

(2) 校長あいさつ

(3) 出席者紹介

改田 八田 岩碕 箕島 荻野 泉川 近藤 木村 長田 中島 石井

評議会会長を石井様をお願いします。

(4) 協議

①コミュニティ・スクールについて (八田)

学校運営協議会の意見は、学校では気づかない率直な意見をきくことができた。われわれが気づいていないところを取り入れることで具体的にどのように地域と連携できるか、工業の特性をどのように生かすか、今回われわれがあげた目標の参考になった。昨年度地域連携とキャリア部会は具体的な活動をしないまま終わってしまった。具体的に活動をするのが今年度の目標である。

②学校グランドデザイン及び学校教育計画について (改田)

1年から工業の専門的技術を身につける授業を組んでいきたい

③平成28年度の学校評価及び平成29年度学校目標について

資料をもとに説明

○近藤委員より

地域の避難所になっているが、夜の状況はよくわからない。自治会として、参加させていただきたいので、ぜひ実施の際はお知らせいただきたい。

○長田委員より

目標に「アクティブラーニングの視点にたって」とあるが具体的に方策がもしあればお話いただきたい。

## 【八田副校長から回答】

アクティブラーニングの視点にたった授業改善については、小中の授業も見学させてもらったりしながら職員全体の意識をかえていきたい。

○長田委員より

アクティブラーニングはなかなか活用してもらっていないので活用して欲しい。たとえば机を円形にするなど、生徒が顔を見られるような授業を取り入れるなどして城北としての特色ある授業計画を作っていただけるとよい。言葉ではアクティブラーニングは大切だと話はでるがなかなか進んでいかない。小中学校は本当に素晴らしい授業をされている。小中学校の授業の映像を職員に見せるなどをしないとなかなかイメージがつかないのではないかと。これはまさに連携・コミュニティスクールだと思う。

④全日制及び定時制の取組状況等について

【全日制】 (八田)

<卒業生進路状況>紹介。

<資格取得状況>紹介。

<部活動の主な実績>紹介。

#### 【定時制】（荻野）

定時制の工業高校は県内で 2 校、神奈川工業と城北工業。定時制で学びたいという生徒には非常に貴重な高校。生徒の出席状況は非常によい。県内の定時制では驚異的な数字と言える。進路の状況は 22 名卒業したなかで 15 名が就職。定時制の生徒もさまざまな資格を取得している。電気工事士一種一名合格している。

#### ○近藤委員より

地域に知ってもらうことが大切なので新聞配付などが学校のためになるのではないかと。桜井小も桜井新聞を地域にまわしている。

#### ○石井教頭より

タウンニュースとか市のこゆるぎ通信でまわすのも良い。小中は市の広報に連絡して報道機関になげかけるシステムがある。

#### ○長田委員より

県のコミュニティスクールの指定になって小中の先生や行政（小田原市役所）が入っているので、（パッカー車のデザインを現在は城北の生徒だけでやっているが、）小中交えてやっていくと市も取り上げてやすいのではないかと。小中と高校の生徒が合同で取り組むと、生徒たちにとってコミュニティスクールの現実味が見えてくる。生徒たちは「コミュニティスクールって何？」と思っているのではないかと。前回も話したが小中高行政もはいった一緒になった取り組みを検討したい。

#### 【改田校長より回答】

小中学生に高校生が指導できる機会があれば（高校生にとっては）自己肯定感をはぐくみ自分自身を成長させる良い機会となり、また小中学生にとっても、良い経験になると思う。

#### ○長田委員より

パッカー車見て城北に入学希望をする生徒もいる。小中交わってやれば台数も増える。

#### ○石井教頭より

小学校でも「お兄さんお姉さん」という少し近い人が教えてくれるのはすごく良い経験。算数とか理科とか一緒に実験に入っただくとかすごくありがたい。

○中島教頭より

中学生にとって地元にある高校というだけでなく、進学先の一つ。子供たちに広めていくのは必要だと思う。部活動と一緒に練習させていただくというのはコミュニティスクールの中学生にとって最初の一步にしやすい。

○改田校長より

中学校教科部会をぜひ城北で開き、あわせて授業や施設を見学していただければ良い機会になる。

○中島教頭より

地域研究会1市4町14校やっているが夏季研修というのがあって、講師を呼ばれたり、社会施設に見学にいったりすることはある。

#### ⑤委員からの意見聴取

○改田校長より

保護者の視点だと勉強させたほうがよいと感じないか。

○泉川委員より

狭いところを見るより色々なつながり特にふれあいとかそういったものはどんどん取り入れていただいたほうが本人の成長にもなり、世間のつながりにもなるし大賛成である。

○長田委員より

グランドデザイン[本校のミッション]に地域産業を担う人材の育成とあるが小田原では地域産業をどのように捉えているのか。

【木村委員より回答】

小田原市は個人事業主建築関係、林業などが多い。

合同企業説明会ができればよい。

#### (5) 情報交換

#### (6) その他

次回日程

2学期後半10月予定

#### (7) 閉会あいさつ(長田)

コミュニティスクールについてご意見頂戴した。学校の目指すミッションビジョンが今日の説明でわかったと思う。各々の立場からどういう方向に進んでいったらよいのか何を求めたらよいのかということをお次回この回によせていただきたい。やはり地域に開かれた学校ということで、地域と学校が力をあわせて取り組んでく必要があると思う。次回もぜひよろしくお願ひしたい。